

奈良県産

大和芍薬花

～大和美人の代名詞～

大和シャクヤクの歴史

- 「立てば芍薬」と、美女の形容に用いられる芍薬が、日本に渡来したのは奈良時代といわれており、室町時代に栽培の記録が残っています。現在日本では、奈良県で長年、薬用とされてきたものが、最高級とされています。
- 大和芍薬の根は古くより、大和当帰と並び代表的な婦人薬として、漢方に処方されてきました。現在でも、当帰芍薬散や芍薬甘草湯、加味逍遥散などの処方があります。

大和シャクヤク花への期待

- 芍薬には『ペオニフロリン』という機能性成分が含まれており、鎮痛、収斂(しゅうれん)、緩和作用などに効果があるといわれています。シャクヤク花にも芍薬と同じく『ペオニフロリン』含まれていることがわかり、抗炎症作用や美肌への効果が期待できます。
- 大和シャクヤク花エキス、大和シャクヤク花末共に、天然由来の美容素材として、美肌効果が期待できます。また、消臭・抗菌効果へも期待できる素材です。

大和シャクヤクの用途・商品例

- 大和シャクヤク花末は、食品用としてハーブティーのアクセントやスムージー等の美容をイメージした商品などに使用いただけます。
- 大和シャクヤク花エキスは、化粧品用として、シャンプーや化粧水、BBクリームなど、皮膚コンディショニング剤として使用いただけます。



大和芍薬花

- 《学名》 *Paeonia laciflora*
- 《和名》 シャクヤク(芍薬)
- 《分類》 ボタン科ボタン属
- 《産地》 奈良県



スタンレー薬品有限公司